



出羽ヶ嶽のこと (上)

女性陣入門絶対反対

柏戸入門に関して、ずっと腑に落ちないことがあった。それは家族内の母・祖母、女性陣2人の大反対だ。大相撲は基本厳しい世界だが、自分の実力・努力次第で展望が大きく広がる。剛本人も結局それに懸け、父・祖父も鷹揚に構えていた。女親の方が心配性である場合は多いが、それにしても家族内での大相撲への見方に関して対比がはっきりしていた。

地元出身の人気闘協だった出羽ヶ嶽(明治35||1902年生まれ)が引退後、昭和25(1950)年不遇のまま、47歳で亡くなったことで山形県人は大相撲へ偏見・複雑な思いを抱いていたと推察しているのだ。

ヤクザな商売ダメだ

祖母・きくゑは剛を入れてずい話し合われた昭和29年秋、角界入門に関しての「家族会議」で「相撲なんて駄目だ。あんなヤクザな商売。孫がケガでもさせられたらどうする」と強硬に反対した。言葉尻だけを捉えると、巨人症(マルファン症候群)だった出羽ヶ嶽の歩んだ道が重なって見え

ものがある。

2才05の大男で、体重も180キ。番付を上げる時は飛ぶ鳥を落とす勢いで末は大関、横綱かと上山出身の愛称「文ちゃん」(本名文治郎)を地元では熱狂的に応援した。

都会は怖い事起きる

「生き馬の目を抜くような都会では怖いことが起きる。しかし自らの巨体を支えきれず膝、腰を痛め、巨人症特有の内臓疾患を抱え、糖尿病を呼び、今度は転げるように番付を落とした。「大男総身に知恵が回りかね」悪口も飛び交った。だが心優しい本人は何も抗弁しなかったという。それをまた雑誌媒体などで面白がられたというから悲しい

入館料で見られる

○:「山形の相撲」展は上山城1階特別展示室で行われる。会期は10月25日まで。午前9時~午後4時45

る。田舎に居るのが一番」と山形から外に出たことがない祖母が考えるのは当然だった。母かつゑも次男・剛を鶴岡南高定時制に入学させたばかりで、公務員への道を歩ませようと安定志向だった。大相撲入門などは「とんでもないこと」だったわけだ。

上山で相撲展開幕

ちょうど今月27日から上山城で「秋の企画展」として「山形の相撲」展が始まる。そのチラシに「写真」には土俵だまりで出番を待つ「文ちゃん」が写っている。

3人の消息分かった

○:前々回掲載した柏戸を囲んだ学生服3人のことが分かった。昭和29年4月、共に鶴岡南高定時制に入学した級友だった。向かって右奥に立っている眼鏡姿が鶴見功さん(83)。昭和31年



不遇だったことを含め、あたとのこと。出羽ヶ嶽とは義兄弟だった歌人・斎藤茂吉との交流も描かれている。文ちゃんのことほもう1週触れたい。|| 敬称略 || (富樫 嘉美) 毎週火曜日付に掲載 5月の夏場所幕下優勝した「富樫」を東京の修学旅行時に祝福した。「前後都内の宿泊先を訪れてくれて旧交を温めて、翌日有志で部屋を訪れた」と思い出した。さらに帰郷時「上野駅まで見送りに来てくれた」という。鶴岡市白山在住で「武士の一分」「十三人の刺客」など庄内映画村で撮影された多くの映画にエキストラ出演し、今も元気にスポーツクラブで汗を流す。向かって右側は本間征市さんで郷土史家・本間勝喜さんの長兄。洋品店を長く経営したが10年前に亡くなった。左の成田徳雄さんも既に他界している。